

第六十一師田野戦病院附屬

陸軍少佐大尉 草柳 正

年月日	概
昭八三一一三	<p>編成下令同日二五日編成</p> <p>才一日、同日三十日 編成を完結す</p> <p>部隊編成先員 三四九名 (軍医一六、藥劑將校三、衛生將校三、主計一、衛生下士官二六、兵科下士官八、庫工下士官三、輜重兵下士官一、主計下士官三、獣医務下士官一、衛生兵一三三、兵科兵一三〇、輜重兵四二一五)</p> <p>行動</p> <p>ノ中支那收獲の爲昭一二、四九 東京出發、大陸經由を以て四月一九日南京に到着、才一五師田野戦病院より任務の授けを受け病院を開設せし城内警備に在する旁ら將校以下約百名を兵站衛生村間に收獲業務を援助す</p> <p>ノ同年五月六日より七月末日迄一部を以て桑原し患者療養所を開設す</p>

九一〇 八一三	3. 廣徳作戦に参加
八一三 五二〇	新和庄 訓練に病院を開設し患者の收療に任ず
四一〇 五二〇	廣徳訓練に於て療養所を開設す
四一〇 五二〇	雨陵作戦に救護班ニテを編成参加せしむ
五二〇 五三〇	新和庄に患者療養所を開設す
一月末	瀧州に患者療養所を開設す
三三〇	師田の上海築城隊派遣に伴り救護班一を編成差出せり
三二一〇	師田の移駐に伴り南京出發四月一日上海着、日本カ五回民学校に在りて其の同趣並に朝音堂附館の築城実施すると共に対米戦斗の教育訓練に從事す 終戦後の八月二九日より病院を開設兵団内患者並に漢地区よりの後進者の收療に任ず 復員実施の爲其の業務を甲五十九兵站病院に引継ぎ附領の上兵隊ヲ三兵

倉に殺され、乗船を待期す。

内地帰還の爲、一月二日 上海港出帆、二七候場島上陸解散す。

兵力

除隊召集解除者

三七八名

死 亡 者

一三名

(内八名昭三、以前より)

生死不明者

一九名

入院患者

二二名

転出者

九四名

(昭三、一以降)

計

五一七名

残務整理者

陸軍軍医大尉

草 標

正

陸軍伍生 津村

竹 標

方 吉

(51)

2138

第六一師團病馬廠恩付

年月日	概 要
昭六三二八	編成下令
三二五	編成第一日
四一	第六一師團病馬廠備成完結
	廠長陸軍少将大尉 小林 芳治
	人員 四四名
	日本馬 五頭
	診療自動車 一台
	裝蹄自動車 一台
	東京出港
	下関出航
	益山上陸

(152)

2139

四三	鮮満国境通過（安東）
四五	滿文口塔（山海關）
七七	南京藉
九一〇 五三二	康徳作戦に参加
九二二 四一	原駐地に帰還不行同地附近の整備 段註の爲南京出発
四二 八二四	上海着不行同地附近の整備並に同地に於て老号作戦準備に参加
八四	傳戰詔書発布
八五	後員下令
九二	傳戰成定締結
九三 一七	部隊一部（佐軍中尉以下七八名）内地帰還の爲上海出発
一一一	LSTにて佐世保港上陸
一一六	部隊主力（部隊長以下四名）内地帰還の爲上海出発

一三二  
一三一

持秀輸送艦「蓮」にて博多上陸

復員人員 内地 七九名

外地 一名

残務整理者 三名

死没者 一名

入院患者 二名

残留者 十三

転居者 一六名(未着六名)

才六十一 師団病院馬隊長 陸軍検医大尉 小林芳治

(187)

2141

第六師團自衛隊隊長

陸軍少佐 杉山重太郎

年月日	概 要
四一	<p>才六一師團自衛隊砲隊として上海真茹に於て表号作戦準備に從事中参戦となり          尔后吳淞兼中管砲台砲兵舎に於て待機す</p> <p>帰還者 表 陸軍大尉 坂口秀二 以下 六一八名          人員</p> <p>行動</p> <p>帰還の命令受領吳淞中管砲台舊旧市政府に一旦          同市政府に於て検査全員合格</p>
三、一四	<p>北江毅田毅橋より米軍のS.Tに全員乗船す</p>
一八	<p>佐世保に上陸(全員)検査及び検査合格          佐世保海兵団に留る</p>
一七	<p>除隊召募解除現狀満期命令受領す          復員式奉行す</p>

(155)

2142

三、二一〇

南凡峽より九井出所を發して歸郷

一、一一一

帰郷全員帰郷完了

残務整理者 播磨小村

一、一四

二日市町到着

書類整備して現在に至る

残留部隊の状況

郎隊長、副官、残務整理者公用書類と共に残留

兵站勤務隊要員吳滋兼中營に残留

残務整理完了 召喚解除

昭三、一、三三

(56)

2143



年月日	概 要
第六五師團長 森 茂樹	<p>昭六七・一〇 軍令陸甲字三六号在天部隊臨時編成（編成改正）要領に據り中華民国安徽省合肥県廬州に於て編成总结</p> <p>六七下旬 徐海地区警備交代の爲 廬州出發</p> <p>八月下旬 徐海地区に移動自地附近警備</p> <p>五三六 四二 徐海省東南部剿共戦</p> <p>四一五 五三三 京漢作戦（颯水作戦）参加</p> <p>三・火降 昭三八二四夜</p> <p>六一四 徐海省内剿共作戦並に初期戦準備 停戦詔書発布八二五 復員下令</p> <p>昭三三・中 以降五月中旬迄 蘇魯港及上海港より逐次内地帰還</p>

(87)

2144

年月日	概要
<p>四一六</p>	<p>第六十五師田司令部の一節 陸軍大尉 井上力</p>
<p>四二 所屬部隊 第六十五師田司令部 前駐地 中華民口任縣魯東路海 行 動</p>	<p>概</p>
<p>四一六 引揚船LS T Q R O 号に乘船速雲より佐世保に向ふ 勸送指揮官 歩兵中七二旅団長</p>	<p>要</p>

中文外ハ

(158)

2145

四三	四二	陸軍大佐	原田 義
佐世保港上陸	佐世保港外に着		
針尾海兵田内隔離舎に入る。			

第六五師團先遣隊要丁

年月日	概要
昭三、三、二四 一九	<p>師團員主力を徐州に一部を煙雲に残余の一部を上海に進出せしむるに力リ            之か復員指導の目的を以て師團司令副將校以下二五名を以て復員指導班を            編成し二月六日出発</p> <p>上海到着</p> <p>捕虜部隊三一三より三、一七の向に於て上海出航完了せるを以て後艦せる            留置、板橋渡支者、退院患者氣味復帰不能者等を收容し北郷中佐輔送指揮            官となり將校一〇下士官兵一〇五軍醫四七を以て第六五師團先遣隊を編成            し、三月二十一上海出航 三月二十四 佐世保上陸 三月二十五 針尾出発            残務整理者 將校一 下士官一 を復興本部に改置他日各都道府県別に分進            帰還せしむ</p>

中文内収

(160)

2147

第六五師団司令部（教育隊）要

年月日	概要
昭三七三	支那派遣軍歩兵教育隊陸軍少佐西田良雄以下二五八名支那派遣軍歩兵教育隊陸軍少佐小泉早巳以下一六三名は支那派遣軍總司令部の命令に依り対米戦争普及教育の爲北支方面軍司令官の指揮下に入りしめられ、中華民國江蘇省江鎮原湯水鎮出發
七六	中華民國山東省濟南藩同年同月十日より山東省工廠泉政店莊に於て、第四軍隷下部隊幹部を集合せしめ、対米戦争普及教育実施中
六一五	終戦の大詔換浴
八二〇	濟南防犯中地区匡山附近の警備勤務隊復歸の命に依り
九一〇	警備交代同年九月一二日湯水鎮に帰還すべく濟南出發同日山東省泰安縣乘父着州軍事政の爲滞在
九三三	赤白出発山東省兗州着 同所附近の鉄道整備

(61)

百四	徐州宛
百六	江蘇省銅山界徐州着
百四	同所に於て武装解除鉄道事故の身障下不能となり
百七	百六五布田口戦後、徐州亦三集中營に於て兼中生活
百七	帰口の爲徐州出発
百七	上海江湾亦十四集中營到着同所に於て帰国準備
昭三、三、三	帰國の爲奉天
〃	上西港出帆
三、一、五	博多港上陸 復員式等行

百六

昭和44

第六五師団司令部換班

年月日	概	要
五、七、一	中支那防没給水部に於て、自部が支那として編成	
七、一四	南京出發 一五旅団到着が六五師団の指揮下に入り、主力を旅団に置き一部を海軍に配属す、	
五、七、三	主力を海軍に駐屯一部を旅団に配属変更す、	
六、二九	が六五師団司令部に転属、が六五師団防没給水部と改称、現態勢の修理任務を履行せしめる、	
一、二、二六	が六五師団換班と改称さる、	
三、一四	旅団に配属せる一部(村上隊)は博多上陸復員完結	
四、三	主力は佐世保上陸復員完結	

(163)

2150

第百二十野戦郵便局

年月日	概要
昭五十一〇	<p>部隊名</p> <p>当局は終戦后一三軍野戦郵便本部の隷下に江蘇省徐州市に宿営の処          一十二軍に転属せられ一月五日、一六五師団の指揮下に入り全師団依          に依り</p>
一三、一九	<p>徐州出發</p>
一三、二二	<p>庫雲孫家山に宿営、全十九日して丁三六号を以て出發</p>
昭三、三、九	<p>佐世原港へ上陸全日在記の通り終員彼軍解除の上現所宿へ復帰せしめたり、</p>
三、三二	

中文集内付

(184)

2151



第六五布田司令部 累尸

年月日	概 要
昭六七〇	<p>軍令陸甲才三六号に據り編成 陸軍中尉 赤井一男以下三五名 徐川出港</p>
二九	<p>上海着同年二月二六日復讐の爲帰國を命ぜられた同年二月二八日 上海港出 帆</p>
三、四	<p>佛多港上陸同日除隊（召集解除）復帰</p>

(165)

2152

第六五師団司令部の一部（村上隊）

陸軍主計大尉 村上弘文

年月日

概

要

昭六七三四

編成完結状況 中領作余ヲ五大号に據リ陸軍主計少尉村上弘文長となり、中支徐州市東站に中支那野戦貨物廠徐州出張所として開設せらる。

行動

南豫州設以來徐州海战区に於ける軍需物資の調弁に任ず

三、八一四

停戦詔書發布

六、三五

復員下命

九、二

停戦決定締結

一一、三五

大五師団作余甲中一五四号に據リテ大五師団司令部に編入

四、八

内地帰還の爲江蘇省徐州市出發

四、一六

上海塔出帆

(166)

2153

	昭三 四二八
	佐世保海上陸 復員完結

昭三  
四二八

昭三

(187)

.2154

第六五師團司令部（山崎隊）

年月日	概略
昭和三十二年	<p>当隊はオ五通信隊の一部にして本隊遂及不能となりオ六五師團司令部に転属せるものなり。</p> <p>オ五通信隊（統一七七七ニ部隊）の編成</p> <p>オ六方面軍隷下に於て編成終結</p> <p>オ五通信隊 陸軍大佐 井上 安三</p> <p>独有オ一一大中隊 陸軍中尉 加 治 重之</p> <p>本隊材料廠 ” ” 長 野 哲 夫</p> <p>独有オ一七中隊 ” ” 石 井 正 盛</p> <p>独有オ一三三小隊 ” ” 竹 島</p> <p>” 一三四 ” 陸軍少尉 安 住</p> <p>” 一三五 ” 陸軍士官 昇 輝 夫</p>

中支隊

イ

ロ

昭五八二	一三六	版谷
一三七	白岩	
一三八	田和	
<p>電信ヲ一隊隊補充隊、独兵各小隊は昭一九、二、三、四、電信ヲ三十一連隊に於て編成、昭二〇、一、三月の向漢口に到着せるものなり。</p>		
<p>才五通信隊の行動</p>		
<p>教育訓練並現用通信網の構成</p>		
<p>朝鮮に転出を命ぜらるる如く漢口出港京漢線至由北上す</p>		
昭五七	才一掃田長	井上大佐
七三六	才二	加治中尉
八、六	才三	本夏中尉
八、一	才四	山崎大尉
	<p>才四掃田(山崎隊)の行動</p>	
	<p>山崎大尉以下八九名(独有各中隊、独兵各小隊本前材料廠の器機率領者)出</p>	

(169)

2156

三九八	二〇八三 漢口出發京漢線經由にて北上す 休養
百九	臨城着 津浦線不届にして北上困難なるにより本隊に連絡し再び休養に引返 本隊への短及不能となりや大五師団司令部に転属す
二五	転属者 山崎大尉以下八八名
	入院者 一名(転属前入院す)
	転属後の行動
	山崎大尉以下八五名徐卅に於て待機
	現地除隊者 三名
二六	徐卅出発 上海に向り八二名(入院三名)
三九	上海着 待機
三三	上海港出発 山崎大尉以下八〇名(入院二名)
三一五	博多港入港
今日	除隊召集解除す

隊長

六五師団司令部附陸軍大尉 山崎利貞

(前所屬 独立有線電一六中隊附)

二日市善

16/3

召解

18/3

(11)

2158

第六五師團司令部桑島隊愚丁

(中國軍隊撤用解除者)

撤受

陸軍大尉

桑島

茨

年月日	概
昭三、四八	<p>部隊主力と分離の行動</p> <p>加六五師團司令部(中支准海省徐州)出発</p> <p>尔後何嘗中口共軍、士民等の妨害を受くることなく上海に集結、加六五師團通信隊、同井上隊(苗中支那野戦偵察隊徐州出張所)と共に特別輸送船紹進丸に乘船、蘇州指揮官陸軍少佐北野昇の指揮を受け、上海港出帆</p>
昭三、四一六	<p>佐世保港に上陸</p>
四二二	<p>関係書類の整理を完了し、東曹長を伴い二日市街偵察本部に出頭す</p>
四二五	<p>復員時に於ける事故を話し</p>

中支内 終

い

と

(172)

2159



第六五師団司令部加藤隊要

年月日

概

要

昭三六初

戦車才三師団は河南省予西及予中地区より逐次兵力を徴収し其の警備を抽立  
警備隊の若隊に引継ぎ京津地区に集中にして其の一部たる当隊は師団の最前  
尾拂団となり八月下旬河南省許昌出港北上せり。

終戦に伴い情況頓に悪化し特に共産軍鉄道破壊其の他所甚だしく鉄道輸送  
辱ミとして進まが一停車場に停留すること五、六十日に及ぶこと甚かり此  
の尙共産軍と対峙し或は交戦すること数回に及ぶ

加うるに当隊は南邛（歸徳）に於て該地居留民約七百名の護任を命せり以警  
備並に輸送上支障又甚かりす。

斯くして一〇月に入るや情況益々悪化して北津浦線は全面的に共産軍の手中  
に陥り全く鉄道の価値を失い当隊又兵団主力へ合流は不可能と見ゆ。

一二月下旬居留民護任の任を解かれ徐州に集結せり、当時（戦後直前）に於

ける戦車ヲ三師田の部隊別人員左の如し

戦車ヲ三師田司令部 将校以下 四

代動歩兵ヲ三連隊 下士官以下 二

戦車ヲ三師田速射砲隊 将校以下 三

戦車ヲ十三連隊 兵 三

ヲ十七連隊 将校以下 五

ヲ三師田搜索隊 下士官以下 四

代動砲兵ヲ三連隊 将校以下 八五

戦車ヲ三師田防空隊の人員にして略二〇、一〇、二四 代動砲兵ヲ三連隊に  
 概算す)

戦車ヲ三師田工兵隊 下士官以下 四〇

戦車ヲ三師田輜重隊 兵 三

整備隊 兵 二

患者收容隊 兵 五

(174)

日又々々

北支那方面軍の医部 軍醫一

部隊は一、二、三、五、日 大五師作命 田中一五三号により江蘇徐州に於て大五師田司令部に転送を命ぜり、尔后大五師田司令部加藤隊として復員業務に從事す

転送時に於ける部隊の編成左の如し

隊長 大尉 加藤忠雄以下百五十七名

隊員

昭和三十二、三十三 大五師田司令部に転送

三、三六 内地帰還の正の隊員出航

三、三一 上海送出国

三、一五 南京港上陸

三、一五 復員業務

(175)

2162

独立歩兵中五十六大隊署

年月日	概 要
昭三九八	編成完了 中六師団歩兵後備中一大隊として鹿児島に於て編成完了 （大隊長陸軍少佐 渡島信助）
昭三〇二六	渡 支 上海附近吳淞にて上陸
昭三〇二六 三、四、三	上海吳淞附近の警備 上海外郭（吳淞方面）の警備
昭三、四、四 四、二六	南津浦線地区へ移駐 概ね海南鉄道に沿って中一線部隊の後方を兵站警備に任じつ、南京―浦口を 経て濰県地区に移駐完了
昭三、四、二七 五、七	南津浦線復旧施設及同線警備

中支内

(176)

2163

昭四、五、七

主力を蘇州に駐し浦口―沙河梁間の鉄路要所に大々一部兵力を配し鉄道の  
道障警備に任ず

独立歩兵大隊に改編

独立混成第十三旅団独立歩兵中隊と改編

大隊長中佐 谷 敏 賢 馬

昭四、五、七

津浦線の警備

依然前任任務を続行

昭四、五、七

治安維持

津浦線の警備に在ると共に全遼東、奉天県蘇州内の治安維持を期す

昭六、七、一〇

編成改編

第六五師団編成されるに当り歩兵中隊七一中隊の隷下に入る

師団長陸軍中將 太田 米 雄

旅団長 大佐 重 政 吉 正

大隊長 中佐 馬 堀 義 生

<p>〇五、四五</p>	<p>六五三二</p>	<p>〇五、五三一</p>	<p>〇六、七三〇</p>	<p>〇六、七三〇</p>
<p>陣地構築の任務移譲</p>	<p>老号作戦準備（海州地区陣地構築作業） 主力を東海兵舎に遷送、海軍、南成、海軍、海上、北頭地区の陣地構築に從事す。</p>	<p>警備交代 独立歩兵才五九大隊（長陸軍中佐改田級治）に警備を移譲す。</p>	<p>警備交代 津浦線一警備 主力を以て宿県に位置し津浦鉄道（夾溝一警備隊同一）の警備並に泗水、宿県、永城、宿県地区警備に任ず。</p>	<p>警備交代 前任務を獨兵団に申渡り七三〇除隊発列車に依り江蘇省宿県地区に移駐す。 （津浦線）警備</p>

昭四六	昭四七	六三	六四	六四	八一五	八一六
<p>駐</p> <p>（独立歩兵中隊三四大隊（長陸軍大尉藤本仁一）に移設す。</p> <p>東海駅発着海鉄道に依り碓山地区に移駐す。</p>	<p>碓山地区並に西陸海線</p> <p>主力を以て碓山県域内に配し沿線要所並に沛泉、麻泉に一部を配し鉄道及  <small>（沛泉、麻泉）警備</small>  地区警備に任ず。</p>	<p>移駐</p> <p>一部を沛泉、碓山、黄口に設置し鉄道に依り東陸海線東海に移駐す。</p>	<p>陣地構築</p> <p>老号作戦準備として師団主陣地内錦屏山地区石カ一線大隊として陣地構築  に任ず。</p>	<p>停戦</p>	<p>移動</p>	

(177)

昭三、八一九

碓山部隊急援

碓山、碓山地区の状況に鑑み碓山地区に列車に依り急進

碓山の状況に鑑み碓山到着と同時に碓山に急進

〇八一〇

碓山地区暫定警備

土匪の鉄道妨害に対し之を確保の爲に急警備に任ず

〇八一四

警備接收

中国軍力大略第二師と警備接收完了

〇八一六

徐州集結

鉄道及各地区を異状なく中国軍に接收完了徐州中兵營に集中す

兵器馬匹被服接收

北兵營に於て夫々異状なく接收完了

(加十九集田臨泉指揮所陳大慶將軍)

〇八一八

移動

(80)

2167



昭三三、一八  
三三、一八

昭三三、一八  
三三、一八

昭三三、一八

昭三三、一八

乘船帰国準備が一次行動として列車に依り運送に移動す。

特船集中

陣雲孫家山坊上宿舎に於て中回軍が九八隊団の警理下に於て特期

復員式

が一、が二、三船に分乘陣雲港を去り、三月一八日、一九日、二十一日

出帆夫々二二日(が一、が二船)二五日(が三船)佐世係に上陸、約二日

待留の後復員式完了、分進除隊帰郷す。

兵力

総員一三〇九(事故発生不明十八名、入院七五名、残留二名)

死亡者累計 二七四名

独立歩兵が五六大隊長

陸軍大尉 岡田 功

(17)

2168

中文外 48

ま

い

ま

い

年月日	概略
昭三、二、二五	軍令陸甲中十八号
三	復員完結
昭三、二、二五	中華民国遼海省徐州に於て編成完結
三、一、三	同地附近駐屯警備
三、一、五	遼海省 富遼保警備
三、一、五	同地周辺の警備
昭三、二、二五	專光一号作戦（山東省鄭城周辺）に主力を以て参加
昭三、二、二五	光号作戦準備のため東海岸東海に前進

独立歩兵中五七大隊 累升

大隊長 星野輝夫

許支外

昭  
六  
一  
二

八  
一  
四

八  
二  
五

三  
二  
一

三  
二  
八  
九

三  
二  
七  
一

三

徐卅に集結

於徐卅停戰詔書發布

復員下令

乘船のため連雲港に前挺

内地返還のため連雲港出帆

佐世保港上陸

復員完結

(193)

2170

<p>昭六七、一〇</p>	<p>年月日</p>
<p>編成前の略丁          九師団後備歩兵、歩兵四大隊、          独立混成旅十三旅団独立歩兵五八大隊          編成及編成後の略丁          軍令陸甲ヲ三六号 在支那隊臨時編成          (編成改正)          復歸(復員)要項に依る、          安徽省合肥縣蘆州に於て独立混成旅十三旅団独立歩兵五八大隊を基幹とし          て改編せらる。          九師団獨立歩兵五八大隊と稱す。          移駐のため蘆州出發</p>	<p>第六五師団獨立歩兵五十八大隊編成</p> <p>概 要</p>

七、三〇

昭六七、一〇

(182)

2171

八二	江蘇省銅山縣徐卅到着同地附近警備
五二九	大隊長柄田大佐指揮の下に常徳城に作戦に参加
三二一	徐卅附近(一市大隈)を分屯警備し其の間大小敵次の討伐掃蕩戦に参加す
三三	老号作戦準備のE切部隊全力を以て
七七	徐卅同知築城に着手す
七二四	師団作戦準備のため主力を以て石汪地区
八一五	(海卅北方六十軒)に転進し英進大隊として作戦準備中
八一五	終戦一六路を悉布せられ翌十六日十四時戦斗行動を停止す
八一九	徐卅地区に集結を命ぜられ海卅に向い前進す
八三一	東曉海線 徐卅一運河間の失道警備
九三〇	徐卅に集結
九三	乘形準備のE切部隊に前進
三二七	内地師団のE切部隊上陸
四三	佐世保港上陸 同日機買式終了
	徐敵(名義解除)者弓場大尉以下百六名

年月日	概 要
昭三九一	才十一師団後備歩兵才四大隊として丸龜市に於て動員完結
九一三	坂出港出帆
九一七	吳淞上陸
九一八	江湾及南翔附近作戦
二二一	軍団轄となり大揚鎮に転進同地附近の警備
二二二	蘇州に転進同地附近の警備
昭三六七	常州に転進同地区警備
二一〇	滁県に転進同地区及鉄道警備
七二四	才二後備大隊として改編才二軍の指揮下に入る
九一八	安徽省廬州に転進同地区警備
九二八	明老に転進同地区及津浦線鉄道警備

昭四一三〇	独立混成第十三旅団編成せられ其の隷下に入り江北地区警備
五七	独立歩兵第五九大隊と改称
六九	三河隼附近討伐
六一三	三河隼附近討伐
九一八	三河隼附近討伐
九一〇	第十三軍の隷下に入る
一〇一	白糸橋求安附近(液田)作戦
一〇二	白糸橋求安附近(液田)作戦
一〇三	白糸橋求安附近(液田)作戦
一一九	白糸橋求安附近(液田)作戦
一二二	白糸橋求安附近(液田)作戦
一二三	白糸橋求安附近(液田)作戦
一二四	白糸橋求安附近(液田)作戦
一二五	白糸橋求安附近(液田)作戦
一二六	白糸橋求安附近(液田)作戦
一二七	白糸橋求安附近(液田)作戦
一二八	白糸橋求安附近(液田)作戦
一二九	白糸橋求安附近(液田)作戦
一三〇	白糸橋求安附近(液田)作戦
一三一	白糸橋求安附近(液田)作戦
一三二	白糸橋求安附近(液田)作戦
一三三	白糸橋求安附近(液田)作戦
一三四	白糸橋求安附近(液田)作戦
一三五	白糸橋求安附近(液田)作戦
一三六	白糸橋求安附近(液田)作戦
一三七	白糸橋求安附近(液田)作戦
一三八	白糸橋求安附近(液田)作戦
一三九	白糸橋求安附近(液田)作戦
一四〇	白糸橋求安附近(液田)作戦
一四一	白糸橋求安附近(液田)作戦
一四二	白糸橋求安附近(液田)作戦
一四三	白糸橋求安附近(液田)作戦
一四四	白糸橋求安附近(液田)作戦
一四五	白糸橋求安附近(液田)作戦
一四六	白糸橋求安附近(液田)作戦
一四七	白糸橋求安附近(液田)作戦
一四八	白糸橋求安附近(液田)作戦
一四九	白糸橋求安附近(液田)作戦
一五〇	白糸橋求安附近(液田)作戦

(13)

中文内分

五二八 五二九	七九四 七九	八〇〇	九九八 九八五	三三六 三三一	一一九 一一三 一一三	昭天 一五 一五	一五 一四 一三 一二	三三八 三八	五四 五三	
老人急附近の戦斗	吳山橋下塘集附近(旅団)作戦	津理附近討伐	三河(軍)作戦	北郡澤陽作戦	朱德軍国家崗附近(旅団)作戦	定遠西打地区(旅団)作戦	興為附近(旅団)作戦	蕪湖周辺地区(旅団)作戦	淮南作戦	浙東(軍)作戦



五二七 六六	皖蘇省境（被田）作戦
一〇二五	嘉山泉附近討伐
一一一六 一一二九	洪沢湖附近作戦
昭三、一三〇	西三里店附近討伐
二二〇 二二〇	沿南線東側地区（倭一号）作戦
三二五 四二二	瓦埠河（倭二号）作戦
二二四 三二四	臨中（倭三号）作戦
昭六、一 一、二	加二次能中（倭五号）作戦
六一〇	加六五師団編成完結し歩兵加七一旅団長の兼下に入る
七二七	江蘇省陽山に転進し同地区及西院海線鉄道整備
八二〇 八二七	加一次豐碭地区（被田）討伐



七三二 一三	海州に転進し同地区警備及築場成に任ずると共に主力を以て蕨・榑青口鎮地区肅正討伐
八一四	徐州集結
八一四	停戦詔書発布
八二五	復員下令
九二二	停戦協定締結
九三三	黄口に転進し同地区及西随海線鉄道警備
九一四	徐州集結
昭三二六	内地帰還の特徐州出発
二一〇	上海に到着
三一四	上海港出発
三一九	博多港上陸

歩兵第七二旅団司令部署（第六五師団長）

陸軍大佐 原田憲美

年月日	概 要
昭六七、一〇	編成完結
行 動	軍令陸甲ヲ三六号ニ依リ支那安徽省廬州ニ於テ編成完結
七、一〇 七、二二	廬州ニ位置シ同地附近ノ警備ニ失事
七、二二 八、一〇	徐州ニ駐屯同地附近ノ警備
八、一〇 八、一九	江蘇省海州ニ駐屯同地附近ノ警備
昭五九、一三 九、二〇	" 瀋陽ニ駐屯同地附近ノ警備
九、一四 九、一五	海州及南城附近ニ在リテ東江蘇省東洋部ノ防犯及對米戦斗ノ当禁城ニ從事
八、一六 三、一八	依然隨海線炮車以東ノ鉄道守備及同作戰地城土匪討伐
五、一九 以降	遂次武裝解除シ海州ニ集結

中支リカ

(170)

2179

四三  
四一六  
斗大

東形の外連要に前送  
兼 願 同月二日佐世係上陸  
復員完結

(191)

2180